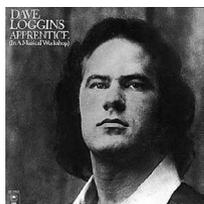


僕が旅に出たことを知るだろう。僕を乗せた汽車の汽笛は、100マイルもの彼方から君の耳に届くに遠くない。ここからコーラスに入ろ。Lord I'm one, Lord I'm 2, Lord I'm 3, Lord I'm 4, Lord I'm 500 Miles from my home。＝神様、僕は100、200、300、400、500マイルと故郷を後にして去って行く。ここでの'home'は、家族や地元というニュアンスが一番近い。

セカンド・ヴァースではこう歌われる。
 Not a shirt on my back, not a penny to my name, Lord I can't go a-home this a-way。＝着替えのシャツも小銭もない。神様、このままでは私は家には帰れない。遠く離れてしまった故郷への望郷の念が歌われている。ちなみに、このヴァースからは色々なミュージシャンが歌詞を借りている。例えばボブ・ディランもこの曲の歌詞をもとにして、「家出して (I Was Young When I Left Home)」を書いた。

次は、テネシー州出身のデイヴ・ロギンズの75年の大ヒット曲「麗しのボストン (Please Come To Boston)」だ。デイヴはロギンズ&メッシュィーナのケニー・ロギ



Dave Loggins
 "Apprentice (In A Musical Workshop)"
 Epic [US] ●KE32833 [1974]
 incl. 'Please Come To Boston'

ンズの従兄弟でもある。この曲は、74年のアダルト・コンテンポラリー・ミュージック・チャートで1位に輝き、全米チャートでは5位を記録した。彼のヒット曲はこの「麗しのボストン」しかないが、色々なコンピレーションに入っていて、今ではアメリカのFMラジオのスタンダード曲になっている。

歌詞は、旅に出ているテネシー州出身のミュージシャンが、旅先の様々な街から、地元に残した自分の彼女を呼ぶというストーリーだ。最初のヴァースでは「Please come to Boston for the springtime。＝春になったらボストンに来てくれ」と頼む。そのあとには、仲間の家には十分なスペースがあるし、君は路上で絵を売るといって続く。でも、「She said 'No, would you come home to me?」＝彼女は、嫌よ。あなたが私のところに帰ってこない?」と言

つてきた。そして歌詞はこう続く。「Hey ramblin' boy, now won't cha settle down. Boston ain't your kinda town. There ain't no gold and there ain't nobody like me」＝ランブリン・ボーイ、少しは落ち着いてよ。ボストンはあなたに合うような街じゃない。お金もないだろうし、私みたいな女もいやしな。'Cause I'm the number one fan of the man from Tennessee」＝だって、私がテネシー州の男の一番のファンなのよ。

その後、デンヴァー、LAでも彼女を誘うが、答えはいつも同じだ。それなのに、彼は音楽で成功したいから故郷には帰れない。曲の最後の1行は、「私がテネシー州の男の一番のファンなのよ」で終わる。このミュージシャンの彼女は故郷での安住を望み、彼の誘いには乗ってこない。デイヴ自身の体験談なのだろうか。

苦勞してやっと成功を収めたジム・クロウチも、切ない歌詞を書いている。「ポックス No. 10」だ。彼は本当に気の毒な男で、下積みが長く、やっと売れた時に飛行機事故で亡くなってしまふ。音楽を続けながら様々なブルー・カラーの仕事をして家族を養



ストリング・ゼム・アロング

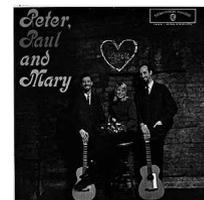
文=ジョージ・カックル

第15回

故郷に帰れない、切なくてロマンある男心

アメリカ人は、できるだけ早く実家を出て独立しようという気持ちが強い。自分の世界を歩んでいきたいんだ。高校を卒業したらすぐにアパートを探したり、仲間とシェアハウスに住むこともある。大学選びも親からできるだけ離れたいから、遠くの大学を選ぶ学生も多い。カリフォルニアの若者は、わざわざ東海岸の大学を選んだり、同じカリフォルニアでも北から南の大学に行ったりする。だからといって親からの援助はそれほどないので、アルバイトをしなければならぬ。なかにはお金がなくなり学校を辞め、親のところに戻ってもう一度やり直す人もいる。でもブライドが邪魔して戻れないこともある。こんな事態に陥ることを、アメリカ人はちよつと情けないと思うわけだが、反面、少しロマンティックだと思ったりもする。今回は、そのような成功するまで故郷には帰れないというようなテーマを歌っている曲を集めてみた。

最初はアメリカでは非常にポピュラーな曲、ジョージア州生まれのフォーク・シンガー・ヘディ・ウェストが書いた「500マイルも離れて (500 Miles)」を見てみよう。アメリカの民謡を採譜していたヘデ



Peter, Paul & Mary
 "Peter, Paul & Mary"
 Warner Bros. [US] ●W1449
 [1962] →ワーナー
 ●WPCR14591
 incl. '500 Miles'

イが、それを基に作った曲（ヘディの幼少時に祖母から聞いたトラディショナル・ソングが元になっているという説もある）だが、この曲を有名にしたのはピーター・ポール&マリーだ。彼らの62年のデビュー・アルバム『ピーター、ポール&マリー』に収録されている。このアルバムは全米チャートでナンバー・ワンになり、「天使のハンマー (If I Had A Hammer)」がシングル・カットされたが、「500マイル」はシングルにはならなかった。アメリカの不況時代に、「ホーボー」と呼ばれていた放浪者を主人公にした歌だ。

元の歌詞はわりとシンプルなのだが、切なさは十分に伝わってくる。こんな感じだ。「If you miss the train I'm on, you will know that I am gone, you can hear the whistle blow a hundred miles」＝もし君が僕が乗る列車に間に合わなかったら



Albert Hammond
"It Never Rains In Southern California"
MUMS [US] ●KZ31905
[1972] ▶ソニー ©SICP4451

incl. 'It Never Rains In Southern California'

tunities, TV breaks and movies. Rang true, sure rang true" = テラノ出演や映画などの魅力的な話は、確かに本当のように聞かされた...。

そしてコーラスがこう歌う。'Seems it never rains in Southern California, but girl don't they warn ya, it pours, man it pours.' = 南カリフォルニアでは絶対に雨は降らないと感じていた。でも、誰も警告してくれないけど、どしゃ降りのもあるんだよ。ここでのどしゃぶりは、曲の主人公がぶち当たった困難を指す。歌詞に 'Oh, it rains' が入っているのは、きっと主人公が女の子にこの話をしてるのだから。

次のヴァースでは主人公が色々な文句を言っている。仕事もない、頭もおかしくなった、自尊心もない、お金もない、愛も足りない、食べている物も足りない、家に帰りたいと続く。ここでもう一度、コーラス

がある。そのあとにくるヴァースが、この曲の面白さの正体だ。'Will you tell the folks back home I nearly made it? Had offers but don't know which one to take' = 僕がもう少しで成功するところだったと、故郷の家族に言っておいてくれ。仕事の話はあるのだけれど、その選び方が分かっていないだけなんだとね。それから主人公は、こう言う。'Don't tell them how you found me' = 僕を見つけたときにどんな底状態だったとは絶対に言わないでくれ。そして、'Gimme a break, gimme a break.' = 誰かチャンスくれよ、と歌われる。ハリウッドでスターになることを夢見てやってきた主人公が、そのチャンスに巡り会えず、悲嘆に暮れている。

●

最後の曲は、グラデイス・ナイト&ザ・ピップスが歌ったことで知られる「夜汽車はジョージアへ (Midnight Train To Georgia)」。もともとはソングライターのジム・ウェザリーの曲で、タイトルは「ミッドナイト・ブレイン・トゥ・ヒューストン」だったそうだが、最初にシシー・ヒューストンがレコーディングする時、このタイトルになった。グラデイス・ナイト&ザ・ピ



Gladys Knight & The Pips
"Imagination"
Buddah [US] ●BDS5141
[1973] ▶Funky Town Grooves [US] ©FTG342

incl. 'Midnight Train To Georgia'

ップスもそのまま引き継ぎ、73年に全米チャートの1位になり、グラミー賞も取った。ある夢を抱えてジョージア州からLAに来た若者の彼女の視線でストーリーが流れる。彼が 'A simpler place and time' = もっとシンプルな場所と時間に戻りたい、と夢を諦めて夜行列車でジョージア州に戻るとき、私も一緒に往くと歌っている。この曲で一番有名な歌詞は 'I'd rather live in his world, than live without him in mine.' = 彼がいなくても世界で生きるより、彼の世界で生きたい、という部分。彼女はLAの人なのかジョージア州の出身なのかは分からないが、その純粋な心がロマンティックで心を打たれる。

●

こんなふうに、独立心は強いものの成功せず、でもブライドが邪魔して帰れない。そんな心境を歌った名曲は数々ある。どれもロマンを感じさせるものばかりだ。

っていた彼には、やはり帰りたくても帰れないという辛い気持ちがあったのだろう。これは72年にチャート1位に輝いた大ヒット作『ジムに手を出すな (You Don't Mess Around With Jim)』の中の一曲だ。

「ボックスNo.10」は、南イリノイ州のミュージシャンが音楽で成功しようと思って旅に出た話。Box #10とは、アメリカの郵便局やホームレスの人たちが泊る教会によくある住所のことだ。自宅がなくても郵便局やこのような場所で郵便を受け取る小さな箱を借りることがある。

'Well out of Southern Illinois, come a down home country boy = 南イリノイ州から素朴な田舎者がやって来た。この歌詞だけで、主人公がすぐくイノセントな人物だと分かる。'down home' とは、素朴でまじめなこと。彼は街に行き、スタジオ・ミュージシャンとして成功したいと思っていた。でも一瞬にして 'Broadway flower' = 女に騙されてしまい、金も取られ、安いホテルに置いていかれた。

次のヴァースでは、'Oh, well, it's easy for you to see, that country boy was me' = すぐに分かるだろう。そのコントリブ・ボーイとは僕のことなんだ。次にくる



Jim Croce
"You Don't Mess Around With Jim"
ABC [US] ●ABCX756 [1972]
◆Edsel [UK] ©EDSD2116

incl. 'Box #10'

コーラスでは、このことを地元の連中にどうやって説明すればいいのかと歌われ、彼はプライドを捨てて親にこう電話する。'Hello Mama and Dad I had to call collect, cause I ain't got a cent to my name.' = 母ちゃん父ちゃん、僕はコレクト・コールじゃなきゃ電話できなかった。少しでいいからお金を送ってくれませんか。'Send it in care of the Sunday Mission, Box #10' = サンデー・ミッションの10番の箱宛に送ってください。つまり、もう泊るところが教会しかなく、そこに送ってもらおうとしているんだ。

次のヴァースでは、彼は故郷に帰れなくなってしまったと歌っている。なぜなら、現金が手元に届くやいなや、'pipe upside the head' = 頭をパイプで殴られてしまった。路地に捨てられ、その上にギターも取られてしまった。ここでもう一度コーラス

があり、もう一度親に電話して、お金を貸してと頼む歌詞で曲が終わる。なんともやり切れない内容だ。

ジム・クロウチはこのアルバムで、アメリカの人々に愛される歌い手になった。ダウン・ホーム (素朴な人たち) のストーリーを、誰にでも理解できるキャラクターを通して歌ったことだね。

●

アルバート・ハモンドの「カリフォルニアの青い空 (It Never Rains In Southern California)」も、主人公は地元に戻りたいが、ブライドがそれを許さないという内容だ。曲の爽やかなイメージとはずいぶんかけ離れている。72年の『カリフォルニアの青い空』からのシングル・カットで、全米チャートでは5位までいった。

この曲は、主人公が飛行機に乗って、カリフォルニアに向かうところから始まる。'Got on board a westbound seven forty seven. Didn't think before deciding what to do' = 西に向かうボーイング747に乗った。よく考えもせずに、そうすることに決めてしまったんだ。アルバートはイギリス人なのでこれは自分の経験から来ているのだろう。'All that talk of oppor-